

善光寺霊園ニユース

横浜やすらぎの郷霊園

◇正門球体モニュメント

霊園正門花壇に大きな赤い球体モニュメントがあります。

この春、モニュメントに『大安心地（だいあんじんち）』と彫刻された石板が取り付けられました。『大いに心安らぐ地』また『安心の大地』という趣旨です。

横浜やすらぎの郷霊園は豊かな自然のもと、お墓参りにこられた方もお墓で眠る御霊も共に安らかな心となる大地。赤い球体は融通無礙（ゆうづうむげ）な滞りなく角のない『まあるい心』



を表しています。

何時お墓参りに来ても、『ほっとする』と言える場所。そして『また来るね』と御霊に声をかけて帰られる場所。皆様方の温かいお気持ち
が、やすらぎの郷霊園の空気を作っています。

どうぞ心やすらかにお参り下さい。

※安心を仏教的には『あんじん』と読みます。

◆善光寺萬霊塔 『やすらぎの塔』

墓地継承のご相談が多く寄せられる中、善光寺では永代供養墓を建立して対応しております。

『やすらぎの碑』では、地下に納骨室を設け骨壺のままお遺骨をご安置致します。

『やすらぎの塔』では、骨壺のままご安置する期間を経過した御霊を自然にお戻し致します。

直接、『やすらぎの塔』へ埋骨する方も増えてきました。今年の合同合祀慰霊祭には、四十名を越える縁者が参列し、二十五霊の御霊を合祀致しました。「お墓の事をどうしたらよいか悩んでいたんです。ずっと心に引っかかっていたけれど、これで安心しました。肩の荷が下りました」とおっしゃられる方。合祀後、皆さま、



お盆やお彼岸にお墓参りに来られます。

「合同のお墓はちょっと淋しい感じがして……」と、いった昔の印象とは異なり、供花が絶えない明るい雰囲気、永代供養墓となっております。

◇園内のリフトが 使い易くなりました

墓域内の階段に設置しておりますリフト（椅子型昇降機）の機種を入替致しました。旧機種の製造終了・部品の供給停止に伴う入替です。以前より座高が低くなり、乗り降りし易くなりました。

事故防止の為に鍵をかけてありますが、ご利用の方はお気軽に管理事務所にお声かけ下さ



い。「楽ちゃん号」と言います。その名の通り楽ちんですよ。

◇お釈迦さまがテレビに

テレビ朝日系バラエティ番組のアメトーーク（平成二十八年九月八日放映）にて芸人・小籾千豊さんの『若者にもっと四月八日を広めたー』という企画で、やすらぎの郷霊園の花御堂とお釈迦さま（誕生佛）の写真が使用されテレビで放映されました。

ホームページを見ていて、華やかな花まつりのイメージにピッタリなので、写真を使わせて欲しいとの事でした。四月八日は、お釈迦さまのお誕生日。仏教の素晴らしさをおもしろ・おもしろ紹介し、『クリスマスだけではなく、毎年この日を家族や大切な人に感謝する日にしたい』と話されていました。

やすらぎの郷霊園では桜満開の頃、毎年四月八日を挟む週末に『花まつり』を行っております。花御堂をお花で飾り付け、お釈迦さま（誕生佛）に甘茶を灌いでお参りをします。

お誕生佛とは、お釈迦さまがお生まれになつて七歩あるき、右手で天を指差し、左手で大地を指差し『天上天下唯我独尊』と示されたという逸話がもとになっております。独尊とはかけがえの無い尊い存在であるという意味。

全ての命が、かけがえのない尊い命。私の命も、あなたの命も、あの人の命もかけがえのない命。



また、甘茶を灌いでお参りする由来は、お釈迦さまがお生まれになった時に天が歓び、『甘



露の雨』を降らせ、地上にある全てが誕生を歓んだという逸話からです。

◇やすらぎ通信

昨年に引き続き、薬剤師の井上裕之先生（昭和堂薬局社長）によるコラムを連載致しました。

東洋医学のものさしである陰陽や季節の養生法を通じて五臓（五行学説）等の話題を、生活に沿った内容で説明して下さいました。

◇ やすらぎ寺子屋

毎月第一日曜日の午後二時から管理事務所の二階にて椅子坐禅と法話を行っております。

坐禅を体験してみたいけれど「足が痛いからとても無理だ」「身体が硬いから無理よ」と思われている方々に椅子坐禅をお勧め致します。

坐禅の姿勢や呼吸など初心者にも解り易く説明致します。『気づき』を保ち穏やかな心で日々の生活を送る智慧を共に学んでおります。副住職が担当しておりますが、寺の都合により担当が代わる月もあります。

今年度は善光寺で長くお手伝い頂いている熊田慧照老師(三高松岩院住職)によるお話もありました。発心し出家してより全国各地の道場で修行された体験談や坐禅について多岐に渡る話題を厳しくも面白くお話しして下さいました。

法話の後には、お茶を飲みながら座談会です。

その時々々のニュースなども話題になります。今年一月には、昨年十一月に起きたパリ同時多発テロで妻を亡くしたフランス人ジャーナリストのアントワーヌ・レリスさん(34)のフェイスブック(朝日新聞十一月二十日より)などを紹介し、「怒り」について考えました。

『君たちに私の憎しみはあげない』

金曜日の夜、君たちは素晴らしい人の命を奪った。私の最愛の人であり、息子の母親だった。でも君たちを憎むつもりはない。君たちが誰かも知らないし、知りたくもない。君たちは死んだ魂だ。君たちは神の名において無差別な殺戮をした。もし神が自らの姿に似せて我々人間をつくったのだとしたら、妻の体に撃ち込まれた銃弾の一つ一つは神の心の傷となっているだろう。

だから、決して君たちに憎しみという贈り物

はあげない。君たちの望み通りに怒りで応じることは、君たちと同じ無知に屈することになる。君たちは、私が恐れ、隣人を疑いの目で見つめ、安全のために自由を犠牲にすることを望んだ。だが、君たちの負けだ。(私という)プレーヤーはまだここにいます。

今朝、ついに妻と再会した。何日も待ち続けた末に。彼女は金曜の夜に出かけた時のまま、そして私が恋に落ちた十二年以上前と同じように美しかった。もちろん悲しみに打ちのめされている。君たちの小さな勝利を認めよう。でもそれはごくわずかな時間だけだ。妻はいつも私たちとともにあり、再び巡り合うだろう。君たちが決してたどり着けない自由な魂たちの天国で。

私と息子は二人になった。でも世界中の軍隊よりも強い。そして君たちのために割く時間はこれ以上ない。昼寝から目覚めたメルビル(息

子)のところに行かなければいけない。彼は生後十七ヶ月で、いつものようにおやつを食べ、私たちはいつものように遊ぶ。そして幼い彼の人生が幸せで自由であり続けることが君たちを辱めるだろう。彼の憎しみを勝ち取ることもないのだから。

荒々しき言葉を語りて

愚かなる者は勝てりと思う。

されど誠の勝利は良く

堪忍を知る人のものなり。

怒る者に怒り返すはさらに

悪しき事を重ねるなり。

怒る者に怒り返さずして

二つの勝利は得られるなり。

他の怒れるを知りて正念に己を知りうる者は己の為にまた他の為に良く利益をこうむるなり。

(阿含経)

目を閉じて、じっと我慢。

怒ったら、怒鳴ったら終わり。

それは祈りに近い。

憎むは人の業にあらず、

裁きは神の領域。

そう教えてくれたのはアラブの兄弟たちだった。

(後藤健二さんのツイッターより)

怒らないことによつて怒りにうち勝て。善い事によつて悪い事にうち勝て。わかち合う事によつて物惜しみにうち勝て。真実によつて虚言の人にうち勝て

(ダンマパダ223)



